# 国際理解教育の推進について

## ～違いを認め、多様な他者と共に生きる力の育成～

## 1 はじめに

「まちづくりは人づくりから」。これはまちの発展を教育の力に託した京都の町衆の志です。今から約160年前の明治2年、明治維新による都市衰退の危機の中、全ての世帯が「竈金（かまどきん）」と呼ばれる私財を出し合い、日本初となる地域の子供たちが学ぶことのできる「番組小学校」を創設しました。以来、本市の人々は、この志を受け継ぎ、市民ぐるみ・地域ぐるみで「一人一人の子供を徹底的に大切にする」教育を進めています。そして近年では、地域の子供たちの中に母語や文化的背景が多様化した外国にルーツをもつ子供が増えています。周囲の子供たちが友達の言語や文化について学習する機会を設けることで、外国にルーツのある子供たちの孤立を防ぐとともに、互いの違いを認め、尊重し、共に学び合える学校づくりを進めているところです。大学や留学生をはじめとする外国籍市民など、多文化共生を支える本市の多様な地域資源を活用した国際理解教育や外国語活動での国際交流の取組についてご紹介します。

## 2 多文化学習推進プログラム

外国にルーツをもつ子供たちは、市内全域の学校に少数ずつ在籍しており、子供たちが孤立することなく、自らの文化的アイデンティティを大切にしながら、自分らしく安心して学び、成長できる学校づくりを進めることが重要です。また、日本人の子供たちにとっても、異なる文化や価値観に直接触れ、その違いを認め、尊重する経験を通して、国際理解・国際協調を深めることが重要です。

そのため、本市では、留学生をはじめとする外国籍市民等をゲストティーチャーとして迎え、母国の文化や生活、言語、遊びなどを題材に学習・交流する「多文化学習推進プログラム」に取り組んでおり、京都市国際交流協会の協力を得て、様々な国・地域からの留学生を京都市立学校へ派遣しています。




### (1) モンゴル留学生による授業事例

**①モンゴルの生活や文化の紹介**

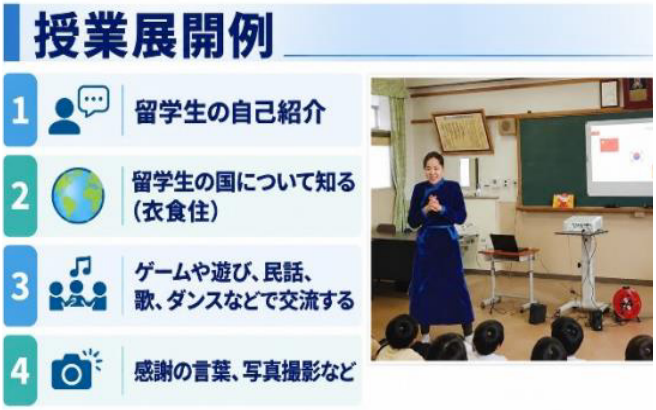
子供たちの多くは、モンゴルに対して「スーホの白い馬」に描かれる草原や馬のイメージを持っていました。留学生から実際の生活や文化を聞き、モンゴルへの理解を深めました。

**②遊びや歌を交えた交流**

小学生が楽しみながら異文化に触れられるよう、説明を聞くだけではなく、モンゴルの遊びや歌などを取り入れた交流をし、体験を通じて異なる文化を身近に感じる機会となりました。

**③交流を通じての気付き**

留学生から、草原ではなく首都ウランバートルに人口の多くが住んでいることを聞きました。子供たちから現代の生活について多くの質問が生まれ、これまでのイメージと実際の生活との違いに気づく機会となりました。




## (2) 学習成果

① 留学生が母国を紹介することで、教科書やインターネットだけではわからない、最新の現地情報や日本との文化の違いを子供たちは知ることができます。

② 小中学校の段階から、年齢の近い留学生とコミュニケーションをとることで、国際的な視野を持たせることができます。また、英語をはじめとした外国語を学習することが、人とつながるためのツールであることを実感し、外国語学習への意欲を高めることにつながります。

③ 留学生からも「質問で自分が見えていなかった文化の違いを再発見できた」、「地域社会に貢献できる機会を与えてもらえてうれしかった」という声があり、子供たちとの交流を通じて、留学生が日本の文化や教育についての理解を深める機会にもなります。

# 3 土曜国際教室

本市には歴史的経過から多数の韓国・朝鮮にルーツをもつ子供たちが学校に在籍しています。本市全域の子供たちが休日に韓国・朝鮮の文化や言葉を学習し、韓国・朝鮮・日本人の子供たちがお互いに異なる文化や言語の違いから学びあえる存在となるため、小学校3年生～6年生を対象に教育委員会主催の「土曜コリア教室」を開催してきました。近年は、母語や文化的背景が多様化した外国にルーツをもつ子供が増えているため、令和7年度からは、韓国・朝鮮も含めた複数の国を学習対象にした「土曜国際教室」にリニューアルして開催しています。

令和８年度は、外国籍市民をゲストティーチャーとして迎え、多言語でじゃんけんを楽しむ「じゃんけん列車」をはじめ、「民族衣装体験」「中国くみひも体験」「フィリピンダンス」「アメリカソング歌唱」など、様々な国や地域の文化に触れる機会を設けました。子供たちは、遊びや体験を通して、楽しみながら異文化への理解を深めました。開催後の保護者アンケートでは「外国にルーツをもつ住民との分断が生じやすい社会だからこそ、子供の頃から遊びを通して世界の文化に触れる取組を続けて欲しい」という感想をいただきました。これからも、小学生の段階から異文化を受容できる力を養えるように様々な文化の紹介や体験機会を設けていく予定です。



民族衣装（チョゴリ）体験の様子

## 4 国際交流の取組（外国語教育を通じて）

### (1) 国際交流の取組方針

本市は、「世界文化自由都市」として国際感覚を持った人づくりを掲げ、学校教育のみならず社会教育を含む生涯学習の中で、市民が外国の文化や言語、国際協力の重要性について学ぶ機会の充実を図るなど、国際理解教育を推進しています。学校教育においては、英語の知識・技能の習得だけでなく、異文化や多様な言語への理解、自らの体験や考えと結び付けて英語を活用する力、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度などを育成するため、小学校から高等学校までを通して実践的な英語力を育むとともに、探究的な学びを推進するなど、グローバル社会で活躍できる人材の育成を重視して取り組んでいます。

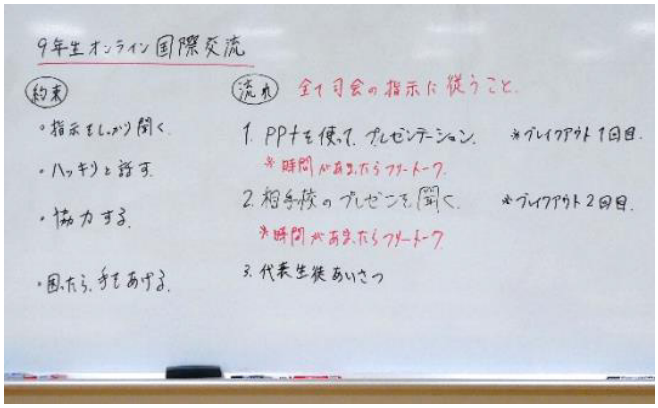
### (2) 国際交流の取組（外国語教育）

令和8年度には「英語教育充実のための取組指針」を策定し、「伝え合う力」「つながる力」「人生を拓く力」を育成目標に掲げました。すべての技能（「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」）の基盤となる「聞くこと」の力の育成や、授業をコミュニケーションの場とする指導の充実を中心に、実践的英語力の育成を各校で進めています。

特にALTについては、国際理解に重要な存在として市立学校全校に配置し、配置の充実を進めています。多様な国や地域から招いたALTとの交流を通して、英語によるコミュニケーション能力の向上とともに、異文化への理解や多様な価値観を尊重する態度を育んでいます。

また、授業外でも、ゲームなどのアクティビティを行う「イングリッシュカフェ」や、学校全体で英語を使用する「イングリッシュデー」など、英語によるコミュニケーションに親しむ機会を設けています。英語担当教員に限らず、他教科の教職員も参加することで、教える・教えられる関係を越えた、英語を用いて伝えたいことを伝え合う環境づくりが進んでいます。

さらに、授業で学んだ表現を活用し、自らの考えや思いを伝える機会として、オンライン国際交流に取り組む学校もあります。英語学習アプリの機能を活用した、海外の小学生や中学生との交流は、日本のアニメや流行など身近な話題をきっかけに互いが打ち解け、友達との会話のような自然なコミュニケーションが生まれています。活動後は、話し足りなかったり、思いを言葉にできなかったりした悔しさから「またやりたい」という声も多く聞かれ、英語を学ぶ意欲とともに、多様な人々と理解し合おうとする姿勢の育成にもつながっています。






オンライン国際交流の様子

## 5 おわりに

留学生をはじめとする外国籍市民や海外の学校との

交流は、子供たちにとって異なる文化や言語、生活習慣、価値観をもつ人と直接出会い、対話する貴重な機会となります。また、交流を通して、文化や言葉が異なっていても、好きなことや大切にしていることなど、自分たちと多くの共通点があることに気付くことができます。今後も、こうした交流や学びを積み重ねていくことで、すべての子供たちが互いの違いを認め、多様な他者と共に生きる力を育むことを目指していきます。